

科目「道徳の理論と授業実践のあり方」について

森本 洋介

2020年4月からの本大学院の改組に伴って、本年度から新規開講されることになった本科目の授業の様子について、途中ではありますがどのようなことをやっているのか報告します。

受講者はストレートマスター1年生の2名です。それに対して教員は2020年3月まで本学に在籍されていた三上雅生先生（現在は青森中央学院大学に在籍）と森本、そしてオブザーバーとして天坂文隆先生が参加されており、合計5名で授業を行っています。月曜日の1コマ目という時間ではありますが、朝早くから道徳教育について少人数での利点を活かし、ざっくばらんに議論を行いながら学びを深めています。

1. 授業の内容

全15回の授業内容は以下の通りです。

第1回：オリエンテーション、授業概要と日程の説明

第2回：学習指導要領を読む（戦前）

第3回：学習指導要領を読む（戦後～「特別の教科」化前）

第4回：学習指導要領を読む（「特別の教科道徳」）

第5回：道徳教育における理論を学ぶ（先行研究の検討）

第6回：教科書を分析する（「主として自分自身に関すること」をテーマに）

第7回：教科書を分析する（「主として人との関わりに関すること」をテーマに）

第8回：教科書を分析する（「主として集団や社会との関わりに関すること」をテーマに）

第9回：教科書を分析する（「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」をテーマに）

第10回：実践を分析する（授業記録ビデオの視聴）

第11回：実践を分析する（視聴したビデオに関して議論する）

第12回：「考え、議論する道徳」を構想する（これまでの授業内容の振り返りから構想を練る）

第13回：「考え、議論する道徳」を構想する（自分の授業構想を作成する）

第14回：作成した授業構想を発表し、議論する

第15回：全体のまとめ

第2～4回目のパート1は道徳教育の日本における歴史と学習指導要領の変遷を振り返りながら、「特別の教科」化された道徳について考えました。第6～9回目のパート2は受講者に教材を選んでもらい、教材研究を行いました。第10回～14回目のパート3では、実

践を観察し、仕上げとして「考え、議論するための道徳」授業について、自分で指導案を作成します。

2. 実際の授業の様子

本記事を執筆している時点で、パート2の終わりまで進行しました。幸運なことに、附属小学校における道徳の研究授業を観察する機会を得ることもできました。特に本年度はいろいろな実習が中止になったり現地訪問からオンラインでの学習に切り替わったりしたため、実際の道徳の授業を観察することができたのは貴重な時間でした。



授業では冒頭に意見交換の時間を設けることもあり、道徳の授業に生かせそうな最近の話題について気楽に話をすることもありました。「鬼滅の刃」や「ドラえもん」にみられる道徳性や価値規範についてとか、国勢調査の地域の取りまとめのときに起こったトラブルなど、子どもが興味を持ちそうな日常的话题から道徳における見方・考え方をどのように引き出せるかを考えました。

授業のメインパートでは、資料を基に道徳教育の歴史的な展開について議論したり、道徳教育をケアの論理（多様な倫理のあり方をマイノリティの声も含めて模索する必要性を説明した論理）と「二人称的かかわり」（共感的に他者とかかわろうとする立場）から検討した学術誌掲載論文を検討したり、教科書の教材を多角的に検討したりすることを通じて日々道徳教育のあり方を模索しています。本年度に開講したばかりのため、受講者からの意見も取り入れながら、よりよい授業をつくっていくための努力をしています。